大崎市 農業委員会だより

【第33号】
令和６年９月１日発行

● 編集・発行 ●
大崎市農業委員会
〒989-6188
宮城県大崎市古川七日町１番１号
TEL　0229−23−2219
FAX　0229−22−8045
e-mail：nougyo@city.osaki.miyagi.jp

大崎市立敷玉小学校　農業体験

主　な　内　容

● 令和６年度総会開催
　・事業計画ならびに専門委員会委員紹介・・２
● 一日女性農業委員会開催・・・・・・・・・３
● わくわく農業体験・・・・・・・・・・・・４
● チャレンジ農業女子・・・・・・・・・・・５
● がんばる農業者・・・・・・・・・・・・・５
● とれたて産地直送マルシェ・・・・・・・・６
● 農業者年金受給者の声・・・・・・・・・・６
● 農地に関するお知らせ・・・・・・・・・・７

本校は「花と緑と歌声のある学校」を目指し、緑化活動や栽培活動に取り組んでいます。

学校の裏には、地域からお借りした畑があり、ふれあい農園として、学年毎に花や野菜を育てています。地域の方々にご協力頂きながらの農園での活動は、地域の方々と触れ合う大切な機会であり、また土に直に触れ命を感じる重要な体験となっています。

今後も自然に親しみ、命を大切にする気持ちを育んでいきたいと思っています。

大崎市立敷玉小学校　校長　本田　結城子

大崎市農業委員会総会開催

四月二十五日（木）開催の第一回総会において令和六年度の事業計画を決定しました。また、六月二十五日（火）開催の第三回総会において七月二十日からの専門委員会委員を新たに選任しましたので紹介します。

令和六年度 事業計画

基本方針

本委員会は、関係機関・団体等との連携を強化し、地域の貴重な財産である優良農地の確保に万全を期すとともに、地域農業者の代表として次の重点事項に取り組んでまいります。

重点事項

①農業委員・農地利用最適化推進委員相互の連絡調整の強化及び関係機関と連携した農地集積・集約化の促進、並びに地域計画の策定
②農地と担い手対策、農業・農村の活性化対策に重点を置いた活動
③農業を担う多様な人財の確保・育成を推進するため、女性や若い農業者の登用に向けた会議や研修会の開催
④優良農地確保のための農地制度の適正執行の推進
⑤耕作放棄地の発生防止・解消対策の強化
⑥農業者年金制度の普及と加入推進の強化
⑦地域農業者への情報提供活動の強化及び農業者等からの意見集約と関係機関等への改善策提案

専門委員会委員紹介

農地委員会

委員長　佐々木　正彦（田尻地域）
副委員長　菅原　清一（古川地域）
※（会長・会長職務代理者以外の全ての農業委員は農地委員会に所属します。）

農政委員会

委員長　中條　泰洋（古川地域）
副委員長　只埜　和臣（松山地域）
委員　菅原　ひろみ（田尻地域）
委員　布塚　幸子（岩出山地域）
委員　佐々木　ひろ子（古川地域）
委員　下山　信行（鹿島台地域）
委員　髙橋　英理子（鳴子温泉地域）
委員　鈴木　至（古川地域）
委員　佐藤　裕之（岩出山地域）
委員　佐々木　俊通（古川地域）
委員　菅原　まり子（岩出山地域）

企画広報委員会

委員長　中鉢　守（鳴子温泉地域）
副委員長　櫻井　正幸（松山地域）
委員　小野寺　正晃（古川地域）
委員　中本　奈美（古川地域）
委員　白川　知則（岩出山地域）
委員　高橋　順子（古川地域）
委員　齋藤　真理子（鹿島台地域）
委員　佐藤　伸幸（田尻地域）
委員　佐々木　大（田尻地域）
委員　中森　昭悦（古川地域）
委員　今野　久男（岩出山地域）

一日女性農業委員会開催!!

取材　高橋　順子　委員

毎年、年二回開催している一日女性農業委員会。今年度第一回目は、七月二日十時から大崎市役所にて開催しました。市内各地域から推薦された女性と、管内で農業を学ぶ高校生、県農業大学校の学生を交えて二十三名の参加でした。

まず、会長より委嘱状の交付があり、その後少々緊張気味のなか、それぞれ自己紹介。今回は女性農業者の他に飲食業の方の参加がありました。

次にこの会の主旨の一つ「農業委員会を知っていただきたい」として委員会の概要と活動内容を各役員が説明。続いて、今では電子版でも購入できて週一回手元に届く便利な農業新聞、老後の安心に是非農業者年金加入を!と、女性農業委員より説明がありました。

その後、三本木地域でパン工房を経営されている大友真弓さんから「みんなの笑顔が私の喜び」と題し講演いただきました。

家族やご近所に配っていたパンが商品となり、多くのお客様に喜ばれ、苦労もありましたが、これからも手捏ねにこだわりパンをつくる人でありたいと話されました。会場は熱気に包まれ、その後いただいた塩パンはとても味わい深いものでした。

午後は、この会の最も重要な意見交換会です。三つのグループに分かれ農業に対する女性の思いと題し様々な意見が出されました。意見の中には「高齢化による担い手不足を解消するシステムを作ってほしい」「中山間地の人口減少が進んでいる。空家を利用し移住対策を早急に考えてほしい」、学生さんからは「刈払い機など女性向けに軽いものに出来ないか」など女性目線の意見も出されました。また飲食業を営む委員からは「大崎には素晴らしい食材がたくさんあり、皆さんが手塩にかけた野菜をもっともっと多くの方に知って食べていただき広めていきたい」と力強い言葉もいただきました。

今回いただきました委員皆様の意見を市に政策提案し、これからの農業振興に努めたいと思います。

次回は、十一月を予定しております。委嘱された委員の皆様宜しくお願いいたします。

※後援「みやぎアグリレディス21」

全国農業新聞
NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

購読してみませんか？農業者の皆様を応援します！

わかりやすく解説
農業・農政

最新情報を逃さない
経営・流通・技術

忙しくてもまとめて読める
週刊紙

地域版
身近な話題満載

頑張る若手や
女性の元気を応援

～お申込み・お問合せは～
お近くの農業委員、
農業委員会事務局
（☎２３－２２１９）まで
お願いいたします。

月４回金曜日発行　月額税込み700円（年8,400円）（送料込み）

わくわく農業体験!!

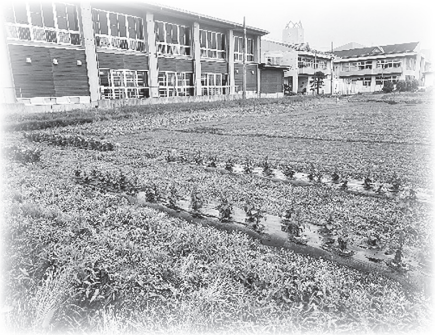
古川地域　大崎市立敷玉小学校

取材
中森　昭悦 委員

プランターではインゲン豆・ラデッシュ、鉢には大豆のタネをまいたよ

土にふれることが好きな子も・苦手な子も一緒に大豆やトウモロコシの苗を畑にうえました

元気に育ちますように　秋の収穫が楽しみだね



地域応援隊の皆さんのお手伝いでお花もうえたよ！

チャレンジ農業女子

取材　齋藤　真理子　委員

美紀さん（右）と夫の柊さん

鹿島台地域　中居林　美　紀　さん（３３）

今回は、鹿島台大迫地区でご夫婦で乳牛を飼育している中居林美紀さんにお話を伺いました。

問　農業に興味を持ち携わったきっかけは？

答　実家が酪農家だったので幼稚園の頃からの夢だったのと、父の体調不良をきっかけに家業を継ぐ決心をしました。

問　経営内容は？

答　酪農　親十頭、育成五頭、繁殖一頭（ほぼペットです）

問　農業をやっていて大変だと思うことは？

答　経営です。最近は消費の減少と餌代の高騰でかなり経営が大変です。それから、生き物相手なので休みはないです。一泊等の時は主人と交代で。大変と言えば大変だけど、動物が好きなので、体は疲れるけど楽しくやってます。

問　農業をやっていて良かったと思うことは？

答　自分たちのペースで出来るし、美味しい牛乳が飲める。

問　今後の抱負は？

答　うちで絞った牛乳を使った「プリン」を鹿島台の材料で作って販売出来たらなと思ってます。

あと、頭数を増やしてヤギやニワトリ等子ども達が触れ合える観光牧場をして、鹿島台を活性化させたいです。

また、一昨年から人用の自然療法『メディカルアロマ』を牛の健康維持に使っていて、獣医にかかる割合が減少したので、みんなに広めたいです。

牛に対する温かい愛情あふれる、とっても明るいご夫婦に私も癒されて帰ってきました。

がんばる農業者

取材　白川　知則　委員

岩出山地域
阿　部　知　洋　さん（３４）
佳　奈　さん（３２）

岩出山池月地区で、繁殖牛飼育と水稲栽培をしている阿部知洋さんと佳奈さんです。

知洋さんは、宮城県農業大学校在籍中に受精資格を取得し卒業後に二十一歳で就農し繁殖牛は三十頭を飼育しております。

知洋さんのモットーは、「仔牛を健康に育て購入して頂ける肥育農家に喜んでもらうのが一番」と話しておりました。今年度は、昨年を上回る二十三頭の出荷予定。

また水稲は、主食米の「ひとめぼれ」を五ヘクタール、「飼料用米」を五ヘクタール栽培し、昨年並みの収穫を見込んでいるようでした。

佳奈さんとは、知人の紹介で知り合い結婚し、四人の子供を授かり家族全員で楽しく農業経営を行っております。

将来的には、認定農業者を取得し、農業委員会で進めている地域計画へ協力し利用農地拡大に向け日々頑張る意気込みを感じました。今後の活躍を期待いたします。

よっていがいん！

岩出山地域「とれたて産地直送マルシェ」

取材　今野　久男　委員

岩出山地域の史跡名勝「旧有備館及び庭園」の西道路を南へ約六〇〇m進むと、左手におしゃれな建物が見えてきますが、ここがマルシェの会場です。運営は、愛知県出身で㈱ブルーファーム代表の早坂正年さん。東日本大震災を機に兼業農家の奥様の実家に移り住み、デザインを通じて東北の食と農業を応援しようと、二〇一四年に仲間と現在の会社を興し、二年後には気軽に相談に立ち寄れるようにと、バターサンドが評判の「ブルーファームカフェ」をオープンさせています。最近力を入れている地域の人づくりの拠点が新たに完成したことから、カフェに加えて人と物の交流の場になればと、昨年十二月末から始めたのがマルシェとのことです。地元の新鮮な野菜やコメなどが販売されており、回を追うごとに品数も増え交流の輪も広がっています。是非、この機会にお立ち寄りください。

神輿型陳列台を制作した神奈川大学の学生達と早坂さん（右端）

営業情報

場　所／大崎市岩出山大学町144-10
期　間／毎月末土日
時　間／マルシェ：午前10時～午後3時
カ フ ェ：午前10時～午後4時
（ラストオーダー3時）
連絡先／ブルーファーム株式会社
代表　早坂　正年
☎0229-25-5442

農業者年金受給者の声

取材　中本　奈美　委員

古川地域
木村　一志（ひとし）さん（７７）

古川耳取地区の木村一志さんは、「作業場も車庫も手作りしてね、今は味噌も作るんだ。思った事は何でも実行するのが元気のもと！」と豪快に笑い語ってくれました。息子さんご夫婦と一緒に、二十五町歩の田をはじめ、大豆やとうもろこしなど、作付け面積も豪快です。

一志さんは若い頃、ご自分の農地を拡大する資金作りのために、農業者年金を一旦退会して、その後再加入した経験があるそうです。もったいなかったと思っているので、息子さんには継続して掛けるようにアドバイスしているそうです。「老後の資金として絶対に必要だから」と。

農業の勉強を兼ねた海外旅行が趣味とのこと。毎年のように海外へ行き、地元の人々と交流するのが一番の楽しみだけれど、落ち着いたら一緒に行こうと計画していた奥様が早くに亡くなられたことが残念・・・と話されていました。

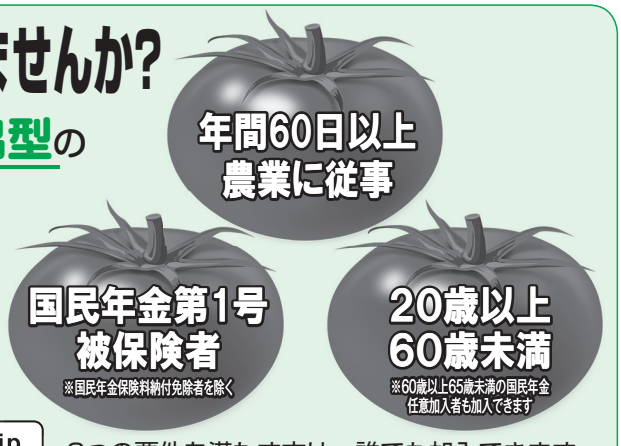
農業者年金で生活の安定を考えませんか?

農業者年金は、**積立方式・確定拠出型**の
安心・安全な公的年金です

内容やご相談は、「農業委員会」または「JA」へ
お問い合わせください。

詳しい年金額
シミュレーションはこちら▶

詳しくは…　農業者年金　検索　https://www.nounen.go.jp

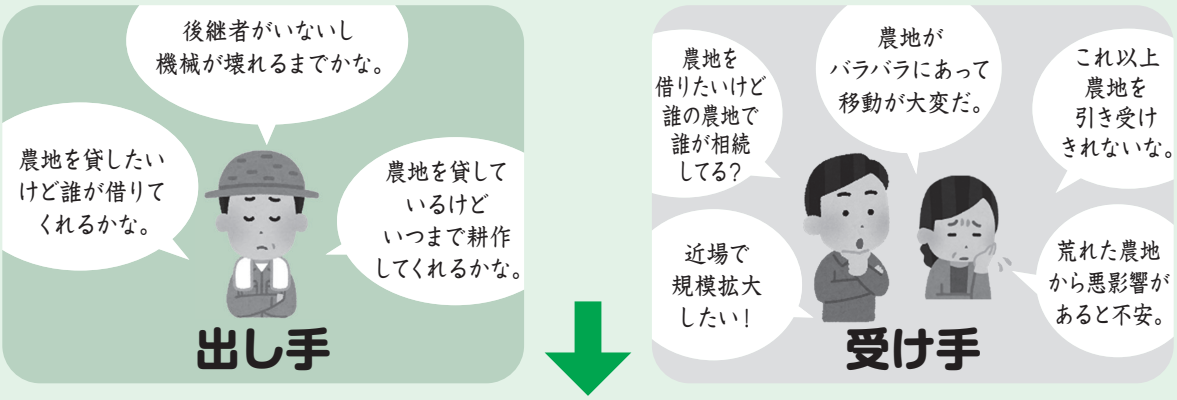


3つの要件を満たす方は、誰でも加入できます。

地域農業を守ろう

農地を次世代に引き継ぐための地域計画に取り組みましょう！

農業従事者の高齢化や人口減少により、農業者の減少や遊休農地が拡大し続けると、地域の農地が守れなくなってしまうかもしれません。これまで地域のみなさんが守り、おいしい作物を作ってきた農地を、子や孫の世代に引き継いでいくためには、今が地域の皆さんで地域農業の将来を話し合う大事な時です。この地域での取組を後押しするため、令和５年４月１日に法律（農業経営基盤強化促進法）が施行され地域計画の策定が義務化されました。



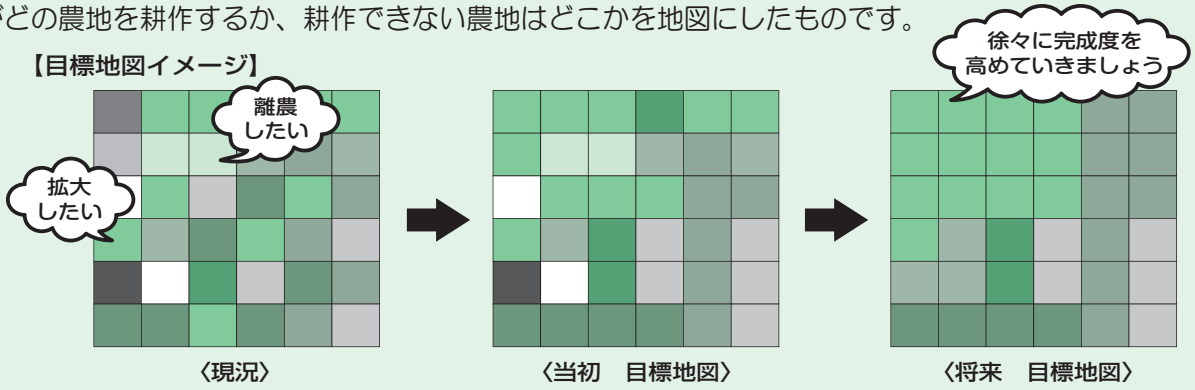
このままでは地域の農地を維持できない！

課題解決のために地域計画の策定に取り組んでいます。ぜひご協力をお願いします。

「地域計画」「目標地図」とは？

「地域計画」とは、農業者や地域のみなさんの話合いで作る、将来の農地利用の姿を明確化した地域農業の設計地図で計画に併せて目標地図を作成することとなります。「目標地図」とは、１０年後に誰がどの農地を耕作するか、耕作できない農地はどこかを地図にしたものです。

【目標地図イメージ】



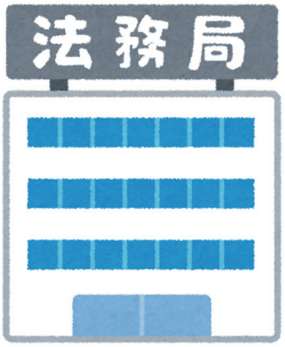
農地等利用状況調査を実施しています

遊休農地や農地の無断転用の実態を把握するため、８月から９月にかけて農業委員会による農地の利用状況調査を実施しています。

調査で判明した遊休農地の所有者等に対しては、「利用意向調査」を実施するほか、農地法の許可を受けずに宅地や資材置き場などに利用している農地が確認された場合は、健全な農地の維持と有効活用を図るため、当該農地の所有者や使用者へ指導を行います。

【農地相続時の手続きについて】

農地を相続したときは・・・



相続登記の手続きを法務局に申請します。

※令和６年４月１日から相続登記の申請が義務化されました。
詳しくは、法務局へお問い合わせください。

仙台法務局古川支局（☎0229-22-0510）

相続登記が完了しましたら、農業委員会に届出します。

※届出の際は、「登記完了証」など相続したことが確認できる書類をご持参ください。
詳しくは、事務局へお問い合わせください。

大崎市農業委員会事務局（☎0229-23-2219）

お問い合わせ先
大崎市農業委員会事務局　☎23-2219
松山事務所　☎55-2111
三本木事務所　☎52-2112
鹿島台事務所　☎56-7111
岩出山事務所　☎72-1211
鳴子事務所　☎82-2111
田尻事務所　☎39-1111

編集：企画広報委員会

委員長	中鉢　守
副委員長	櫻井　正幸
委員	小野寺正晃
委員	中本　奈美
委員	白川　知則
委員	高橋　順子
委員	齋藤真理子
委員	佐藤　伸幸
委員	佐々木　大
委員	中森　昭悦
委員	今野　久男

編集後記

出来秋

刈取り前の黄金色になびく稲穂をみれば、一年間の米作りに悔いは無いかと問われ、様々な思いが頭を駆け巡ります。

それ以上に挽き下ろした玄米の輝きと、新米の青さの中にある美味さを味わいたくて気持ちは高ぶります。

新米を食べながら、作り手の一年間の努力と思いを感じ取っていただけたら幸いです。

中鉢　守

SDGs未来都市
おおさき

【農業委員会事務局の事務室移転について】

７月１日に大崎合同庁舎から**市役所東庁舎４階**に移転しました。なお、住民票、印鑑登録証明書、農耕機械所有証明書の発行業務は終了しました。

この広報誌は環境にやさしい植物性インキで印刷しています
再生紙を使用しています